

JAPAN CREATION 2000 テキスタイルコンテスト  
初のTDA特別賞は大野正博氏（日本毛織）

●テキスタイルコンテスト—特別賞として「TDA賞」を新設。

TDAの今後の活動の一環として、デザインコンテストの企画も検討する中、独自の企画もあるがJCの既存分野を越え、単にペーパー上のデザインだけでなく素材～表現、具現化するための生産技術まで中の広い視点でのデザイン評価はTDAの理念に共通するものというわたなべ副理事長の提案と、今回の審査委員長皆川魔鬼子氏のご尽力もあり特別賞として「TDA賞」が新設された。全体で518点の応募申し込みがあったが、TDA会員からの応募は少なかった。次回には是非、積極的な参加をお願いしたい。

●審査委員長 皆川 魔鬼子氏 講評

(株)ミヤケデザイン事務所 テキスタイルディレクター

ジャパンクリエイションは日本の繊維産業が、業種産地を越えて運搬し、日本発のオリジナルのクオリティーと創造力を発信する最大規模の繊維総合見本市ですが、今回で3回目を迎えました。またこのジャパンクリエイションでは日本オリジナルテキスタイル創造を目指すテキスタイルデザイナーに作品の発表の場を提供することを目的にテキスタイルデザインコンテストを実施していますが、このコンテストも、3回目を迎えました。私は初回から審査にかかわらせて頂いていますが、今回審査委員長という大役を依頼されました。2000年にふさわしいテキスタイルデザインマインドを捉えた作品を、ということを審査の基準として、慎重、公平な方法で選考されました。

応募点数518点のうち、実質のエントリー数は423点ということでしたが、まず82点が選ばれ、その後の最終審査へと進み、各賞が選ばれました。

今回の栄えあるグランプリには全審査員が一致し、小林信隆氏の作品「BURN」が選出されました。コンセプトは、従来の服のテキスタイルの要素や構造を脱構築し、不条理さや異質さを布に与え未知の服へと変化してゆくテキスタイル、ということでしたが、コ



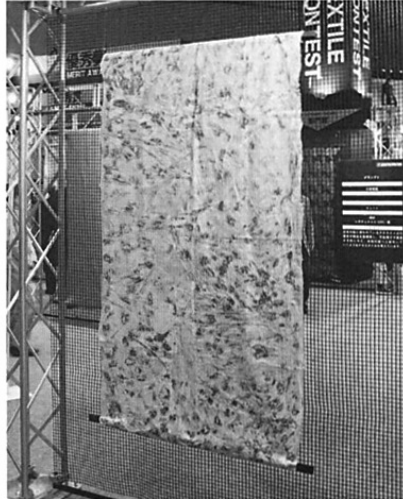
ンセプト通りのオリジナリティーのある創造がなされ、今までに類のない不思議な自然素材、絹、紙などがレジテックスで閉じこめられ2000年にふさわしい現代感が追求されていました。

また、今回、特別賞として、日本テキスタイルデザイン協会から賞金30万円が加えられました。この新しい賞には、大野正博氏の作品「溶かし穴プレスフェルト」が選出されました。コンセプトは紡毛メルトンにプリント柄でオパール加工溶解させた穴だらけの素材を強縮絨フェルトさせたウールで量産再現可能素材、というインダストリーな考え方に全審査員が納得され、選ばれました。モノクロームのシンプルで力強いデザインが上質のメルトンで現代的に表現され、作品だけにとどまらない点が評価されました。

また優秀賞には坂井剛毅氏の「FOUR WAY STRETCH FABRIC ミルファイユ」、澤利一氏の「ウェーブ」、前田富雄氏の「自然の味わい」が選出されました。以上が結果ですが、今後も21世紀に向け日本から世界へ発信できるテキスタイルデザインの開発に向け挑戦して頂きたいと期待しています。

来年も多くの方の応募をお願いします。

■グランプリ(100万円) 小林 信隆 (多摩美術大学大学院)  
テーマ「BURN」 絹紗レヂテックスS-500、紙



上野理事長による授与式

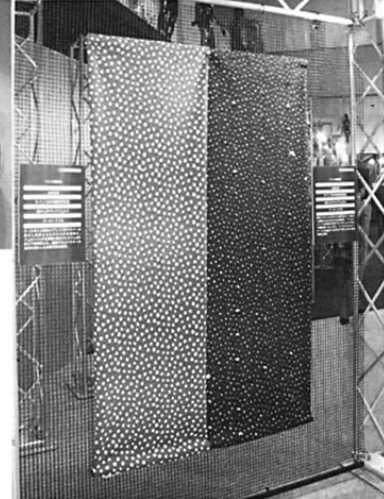
●コンセプト

従来の服に使われているテキスタイルの要素や構造を脱・構築し、不条理さや異質さを布に与え、未知の服へと変化してゆくようなテキスタイルを考えました。

●受賞の喜び一言

この度は、大変、素晴らしい賞を頂き本当にうれしく思っています。「まさか自分が」というのが正直な気持ちですが、これをきっかけにいろいろな方々と出会うことができ、自分の世界を広げることができました。大学院での生活もあと1年ほどあるので、これからも今まで以上に自由にエキサイティングなテキスタイルを制作していきたいと思えます。夢は大きく世界で活躍できるテキスタイルデザイナーになります。

■TDA特別賞(30万円) 大野 正博 (日本毛織株式会社)  
テーマ「溶かし穴プレスフェルト」 ウール100%



●コンセプト

紡毛メルトンにプリント柄でオパール加工し溶解させた穴だらけの素材に、フェルトパッドを裏側に敷きプレスフェルト加工で強縮絨仕上げた。ニードルではなくウールの縮絨する力だけで仕上げた生産可能な素材。

●受賞の喜び一言

今回、TDA賞という名誉ある賞を頂きありがとうございます。日頃からお世話になっている方々のご協力があり、その代表として幸運にも受賞できたと思っています。これからも産地、業種を越え、新しい素材を創造すべく努力してゆきます。私のテーマの一つはウールを使って新しい物創りをすること、ウールにしかできない素材を造ることです。多くの方に天然繊維の良さを知っていただき、未来の繊維界に貢献したいと思っています。

(レポート 杉山 哲三)